



よしかわ さとみ 里己 市議会報告



市政に対するご意見は Facebook『吉川里己』まで!

[公式サイト] <http://yoshikawasatomi.com> [メール] info@yoshikawasatomi.com [ツイッター] @syoshivv

こども図書館がついにオープン!



「こども図書館」は、武雄市図書館・歴史資料館との一体的な施設であり、「より豊かな親子の育ち」を支援し、子どもを中心に親や多世代の方々が気軽に集い、遊び、学び、交流、リラックスできる新たな施設として、10月1日にオープン。

○概要

- [開館日数] 年中無休
- [開館時間] 午前9時～午後9時
- [フードコート] 「九州パンケーキカフェ、HONEY COFFEE」 *持ち込みも可能です。
- [蔵書数] 図書 20,000冊 CD/DVD 1,000枚

●御船児童クラブが増設されます

(予算額4930万9千円 うち市費839万2千円)

平成27年度から利用対象を6年生まで拡大したことにより、御船が丘小学校の児童を対象とした、ひかりっこ(1、2年生)127名と、空き教室やミーティングルームを利用していたゆめっこクラブ(3年生以上)73名は、登録者・利用率とも増加しており手狭な運営を余儀なくされていました。



平成30年度より特別支援・少人数学級の確保と、クラス数が増える可能性が大きいこともあり、今回新たに学校プール南側に御船ゆめっこクラブの施設を新設し子育て支援の充実を図ることになりました。

●ふるさとのづくり支援へ

(予算額72万千円 全額補助)

生姜やレモングラスなどの地域資源を活用した新商品開発に取り組んでいる企業に対し、事業化(商品化に向けた事業化、市場調査、販路開拓など)の支援を行い地場産業の育成を図ることになりました。今回は武雄市商工会が取り組まれる「武雄生姜PRプロジェクト」を支援するものです。これまで、生姜にレモングラス等をスパイスとして薬膳・健康食を開発されてきました。今回、薬膳ジンジャーシロップの商品開発と販路開拓が行われます。



平成29年9月議会で可決成立しました

●地域共生ステーション防犯対策強化へ

(予算額144万6千円 うち市費72万3千円)

2016年に起きた相模原障がい者施設殺傷事件をうけて、高齢者施設等における防犯対策を強化するため、県の補助金を活用して防犯カメラやセンサーライト、110番直結非常通報装置などの設置費用を市内の3施設に補助することになりました。

●農業基盤整備事業(暗渠排水工事)

(予算額358万円 うち市費91万8千円)

農地の排水不良を解消することで、麦・大豆等の作付面積は反収増を図ります。対象地区：朝日町川上区・中野区(4.8ha)

●災害復旧工事が始まります

(予算額2億2610万円 うち市費1396万4千円)

7月梅雨前線豪雨により被災した災害箇所について早期復旧を図ります。

〈公共土木災害復旧事業〉

道路10箇所、河川11箇所(単独分含む)

〈農地農業用施設災害復旧事業〉

農地30箇所、農業施設21箇所、

管理道路1箇所、農林地8箇所



平成29年度9月議会

住宅地の地域バランスとゾーニングを

吉川

国土利用計画が平成21年に策定された。中心部である御船が丘小校区の開発が著しい。児童数も武雄小の1.8倍に増加している。そういったなかで北方中央線周辺も用途区域として住宅開発が始まった。高橋駅を中心とするエリアもインター、商業施設、学校、病院も近く中心部の宅地開発の受け皿となりえる。市としては各町の住宅政策として宅地開発エリアに適している所をゾーニングし環境整備を誘導する必要があるのではないか。

古賀企画部長

土地利用に規制をかけることで、乱開発を防止してきた。中心地の住宅候補地が減っていくなかで、地権者の同意があれば宅地としての活用も考えられる。武雄東部地区のような規制をかけつつ、案件ごとに対応していく必要がある。

小松市長

今武雄もどんどん変わってきている。土地政策というのが非常に重要であると考えられている。時代の先を見ながら、どこを開発誘導していくのか。一方で乱開発を防止していくのかバランスを見ながら先手先手でやっていく必要がある。新幹線も開業を迎える、まさに今がチャンスであるので地区単位でのゾーニングに取り組んでまいりたい。



集落営農組織の法人化についてどう考えているのか

吉川

生産者の高齢化、後継者不足、農産品の価格低迷で今後農地をだれが守っていくのかということで中山間地だけでなく平坦地でも5年10年後さらに深刻化することが課題と言われている。現在、その受け皿として集落営農組織が機能をはたしていただいている。国県はその法人化を推進しているがなかなか進まないのは何故か。

松尾営業部理事

市内47の集落営農組織が設立されており、うち4組織が法人化されている。法人化に取り組む明確な理由が見い出せない。経理や財務の実務負担。先祖の土地を手放すことになるのではという心配。見返りがなくなるといった懸念を伺っている。

吉川

根本にあるのは法人化して5年後、10年後にどのような姿になるのか国も含めて農業のビジョンを示されてない点が一番の問題だ。今後、法人格を有しない今の集落営農組織は受け皿になり得ないと言われているが、市としてどのように取り組んでいくのか。



松尾営業部理事

担い手育成総合支援協議会において集落営農法人化育成計画を策定し関係機関と連携し取り組みを支援していく。今年度は中若木集落営農組合を重点区域と位置づけ協議を進めている。また他組織についても支援を行なうよう考えている。

定住特区補助金の拡充で周辺地域の活性化を

吉川

今年度の補助予算額は1,000万円に対し補助金交付実績が8月末時点で1世帯50万円と低迷している。制度の活用が進まないのは、市外に3年以上居住された方が特区内(橋、若木、武内、西川登、東川登、北方の一部、山内の一部)に新築、空き家購入、賃貸された場合と条件があまりにも厳しいからではないか。人口減少が著しい地域の活性化が目的であるならば、特区外に3年以上居住された方に対象を緩和するべきではないか。

古川まちづくり部長

県のスマイル支援事業とあわせて制度の周知を行っているところである。申請状況や財源、課題に留意して考えていきたい。



小松市長

同居とまではいかなくても近居というところをもっと促進できるようなやり方が必要と思っています。スマイル事業のかさ上げにするのか、あるいは近居助成がいいのか現場の話も聞きながら効果があるとあれば制度化していきたい。

武雄北方インター周辺の工業団地整備を

吉川

現在、東川登袴野地区に新たな工業団地整備の測量設計がおこなわれており早期完成が望まれている。工業団地の整備には長い年月が必要となる。次の候補地として武雄北方インター周辺もポテンシャルが高い地域である。この周辺の土地利用について伺いたい。

小松市長

東川登の工業団地造成にあたって地元協議を始めたところで早期完成に向けてやっていく決意である。次については企業の動向を見ながら時々に応じてしっかりとやっていく必要があると思っている。一つの候補地として参考にしたい。



その他、トレーニングファーム、国道34号バイパス、国道498号について質問しました。